



オークの結婚式

彼女達は  
「星導騎士団」

星の神々に使え  
人々を魔族から守るため  
闘い続けている





天秤の星よ

我に悪を裁く力を!



いややあ!!



早く!  
貴方だけでも  
逃げなさい!

いや!  
ママも!



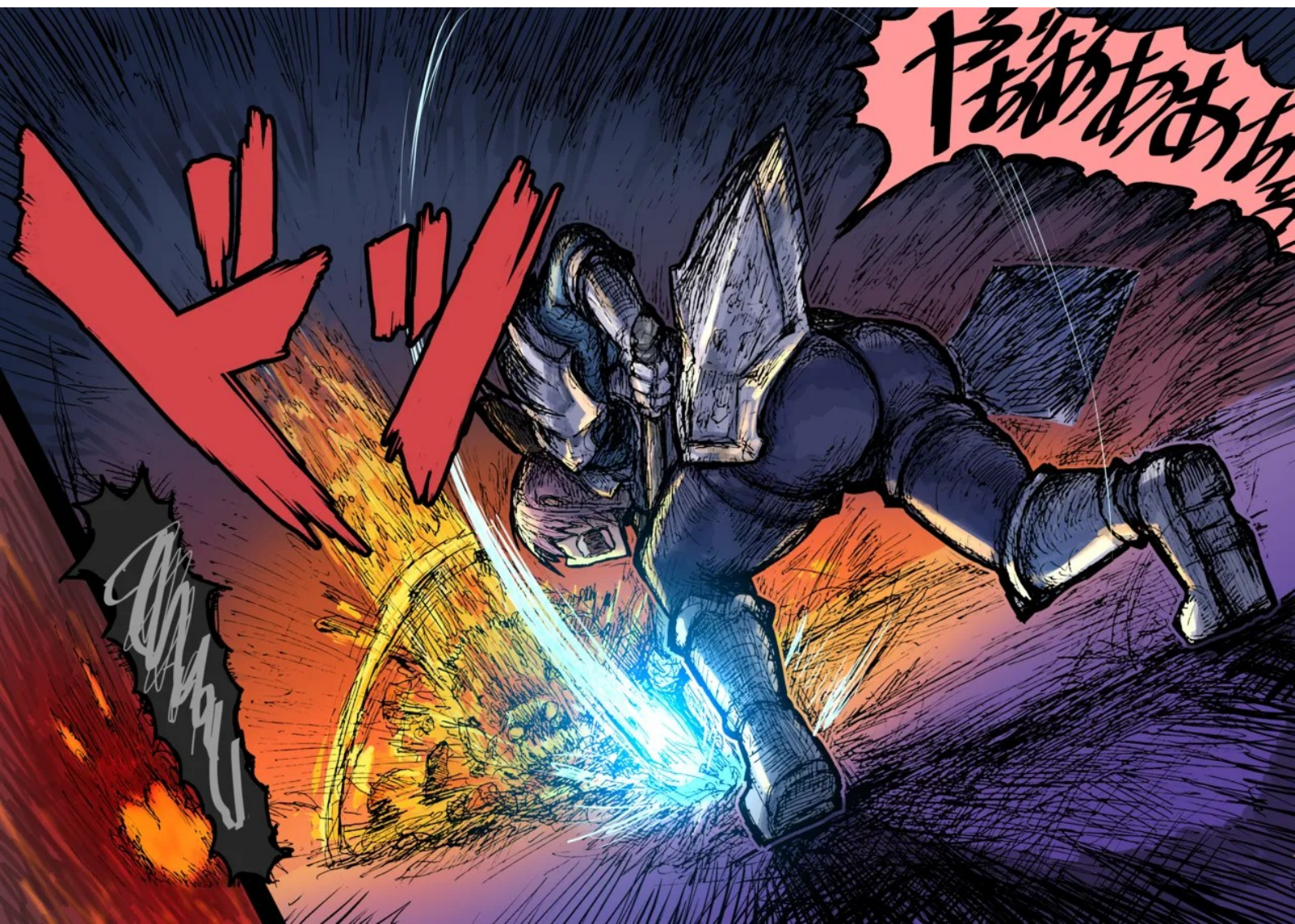
もう大丈夫よ



!?



騎士様...?





しかし



騎士達は  
人々の憧れの存在であった



貴方にも  
星の神々の導きがあらんことを

ヘレナ  
(兵種：アーマーナイト)





一瞬の隙が  
彼女の命運を分けた

油断した!?  
でも大丈夫

こんな修羅場  
何度も乗り越えて…!

うっ!!

え!?

うそーちよつと!

なんで!!  
ちよつと待って!

まてー!  
あつー!

あああああああ  
あああああああ  
オークに敗北した

ベィィィィィィィ

グッ



魔族も騎士に対抗する力を手にしていた

そして他の騎士達も

!!!

1人また1人と

オークに敗北し

犯されていた



時は経ち  
魔界 オークの国



オークは騎士を  
連れ去って行った



彼女達が  
その後どうなったのか  
人々は知る余地はなかった

始めるぞ

結婚式を



身体が  
変わってしまった。

連れ去られた騎士達は  
無事だった。  
しかし様子がおかしい。



オークの男根を求める彼女たちの姿はまさに雌豚のようであった。そこには騎士道などありはしなかった。

あそこがうずくつ

はっ

はっ

はやくつ  
せしをいれてくれつ

はっ

離らしくなったな  
立派なポテ腹だ

ああっ  
そ そんなこと  
いわないでえっ♡

はっ



はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡



美味しいわっ  
下の口にも入れて  
下さい♡

ああっ  
すこいっばいっ♡

華やかな衣装  
豪勢な食事  
美しい暮らし  
今の彼女たちには必要なかった。  
今はただ、遅いオークに  
愛される事だけを求めていた。



彼女たちは人の倫理観を捨て  
オークの文化に染まっていた。  
性行為を娯楽のように行い  
色々な雄達と  
身体を交えていた。

あなた  
私のイクところ  
よく見てくださいな

あぁ  
見せてくれ

乱れ狂う  
アロマが見たいんだ

パン  
パン  
パン

ズッ  
ズッ  
ズッ

パン  
パン  
パン



乱交は一夜中続けられていた  
辺りには嗚咽のような  
喘ぎ声が鳴り響いていた



快楽に染まるその姿は  
オークの嫁に相応しかった。  
そして、  
儀式も最大の山場を迎えた。



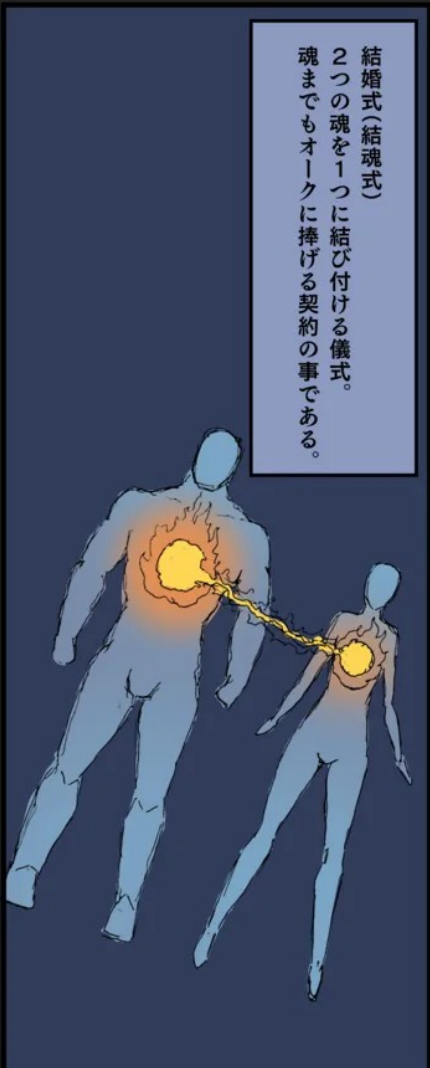
お前たち騎士には  
犠牲になつてもらう

我々には…  
果たせばならぬ夢があるのだ…!!



そして死後も魂は神々のいる天へ迎えられず  
オークと共に魔界を彷徨うことになるであろう。

もし見つければ彼女達は  
【被害者】ではなく【魔族】として  
自分達の居た騎士団の手で処刑される事となる。



結婚式(結魂式)  
2つの魂を1つに結び付ける儀式。  
魂までもオークに捧げる契約の事である。



私  
オリビアは

貴方に魂を捧げると  
誓います

結婚(結魂)して下さい

はーっ

ぐっ



私は貴方の物

夢を叶えるため  
私の身体を使って下さい



私にも  
その夢を見せて下さい

貴方の傍で

ぐっ  
じゅわ



私たちの事を  
気にかけてくれる  
なんて嬉しい

じゅわ



オーク様が教えてくれたんですよ

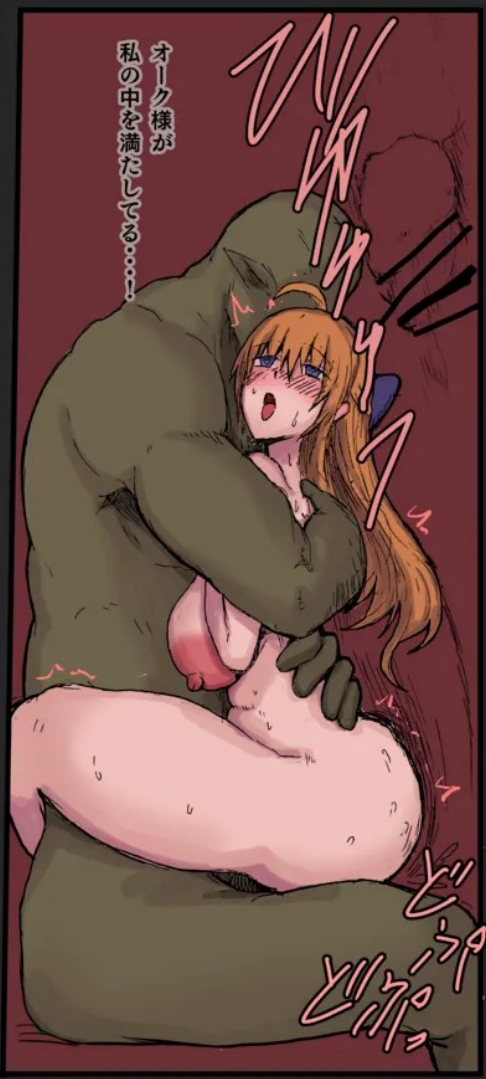
本当の正義を



魂が結びついたその瞬間。  
彼のこれまでの全てが  
彼女へ共有されていた。



魂が結びついたその瞬間。  
彼のこれまでの全てが  
彼女へ共有されていた。



そして他の騎士たちも  
オークに魂を捧げていった。

あなた  
早く入れて  
私たちも誓いませよ

他のに負けない  
お前の濃い精子で  
孕ませてくれ

ほら早くしないと  
僕 他のオークの  
赤ちゃん  
産んじゃうよ？

私の全てを貴方にあげるね  
だから赤ちゃん産ませて





もう彼女達は戦場に出て傷つく必要はない。  
オークの子供を育てる生活を送るのであった。



これまでお互い殺しあっていた者達が  
身体を重ね愛し合っていた。  
彼女達は雌の幸せに包まれていた。





もうお前は  
俺のものだ

悲しみや不安は  
オレに任せて

お前は幸せだけを  
感じればいい



ずっとそばに  
いてくれる？

ああ

じゃあいいよ  
結婚しよう



もう忘れさせて…

産まれた時から  
貴方の雌だったと思うくらい

思い出さないように  
幸せでいっぱいにして…



騎士の事

家族の事

そして彼の事



後はお前だけだ

どうした？



ここに連れてこられて  
最初は辛い事ばかりだったけど  
今は幸せよ



でも一人になると  
思い出してしまうの

女騎士はもう  
過去を捨てる  
覚悟を決めていた







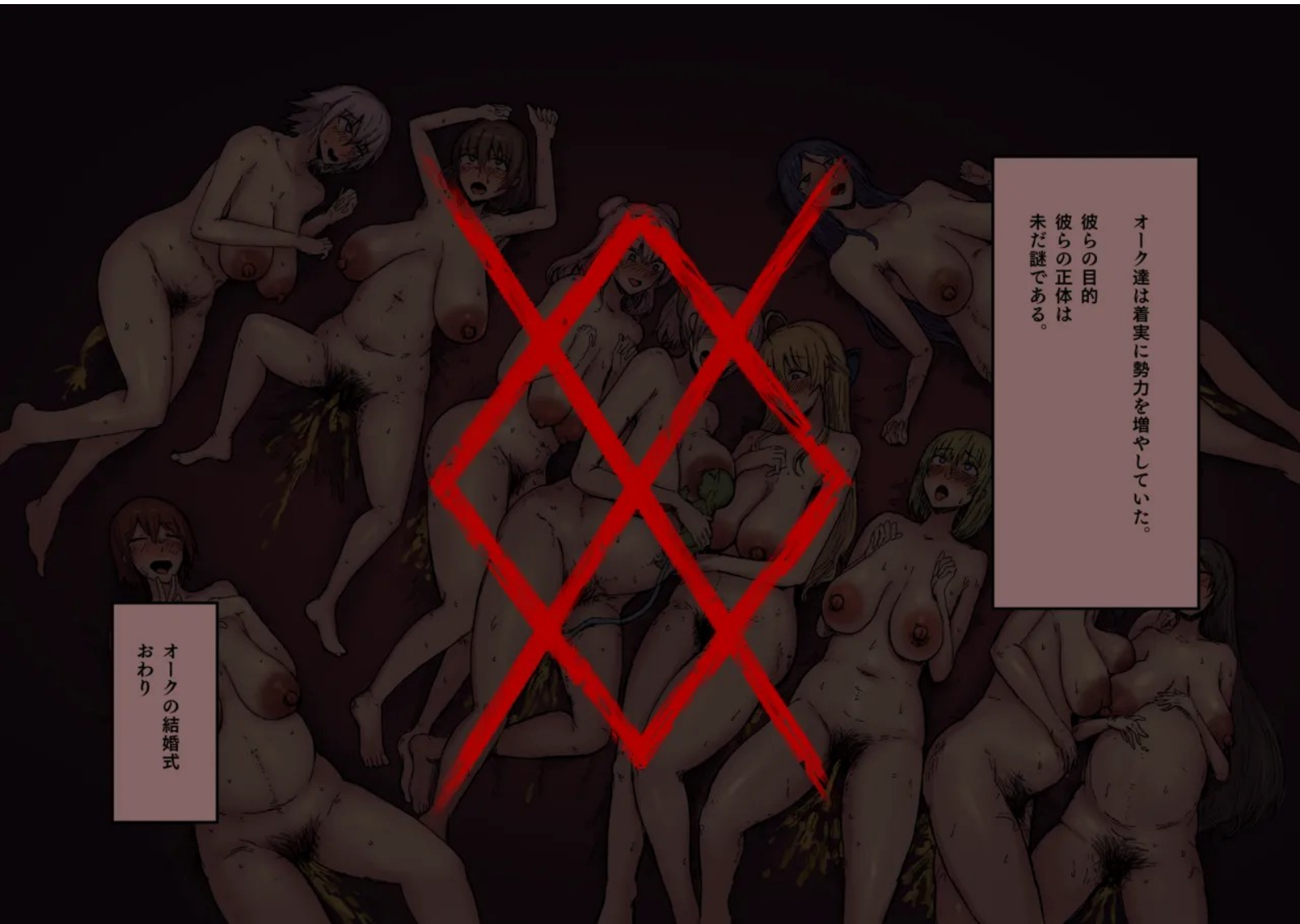
魂の共有をした時  
ご主人のオークから  
何を見たのであろうか？

こうして女騎士は  
オークの仲間に迎え入れられた。



これから彼女たちは  
オークの妻として  
幸せに過ごすのだった。



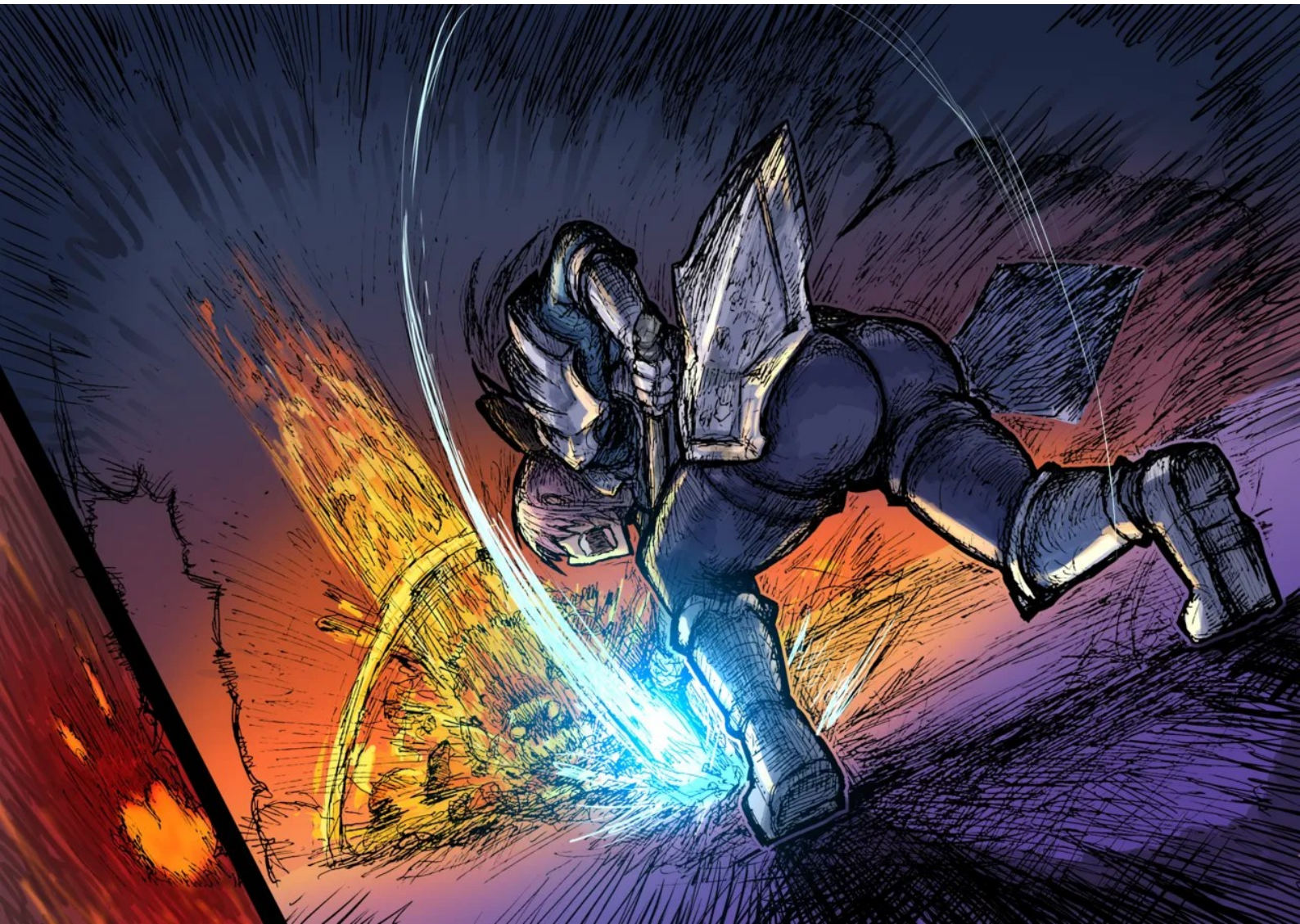


オーク達は着実に勢力を増やしていた。  
彼らの目的  
彼らの正体は  
未だ謎である。

オークの結婚式  
おわり

















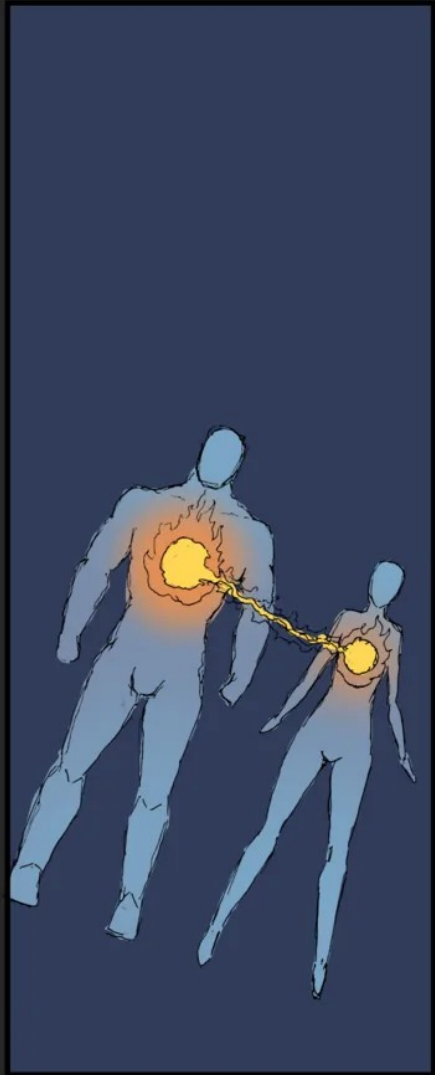
















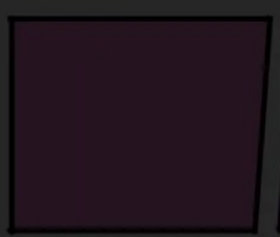
























彼女達は星導騎士団  
星の神々に使え  
魔族から人々を守るため  
闘い続けている



オークの結婚式



天秤の星よ

我に悪を裁く力を!



いややあ!!



早く!  
貴方だけでも  
逃げなさい!

いや!  
ママも!



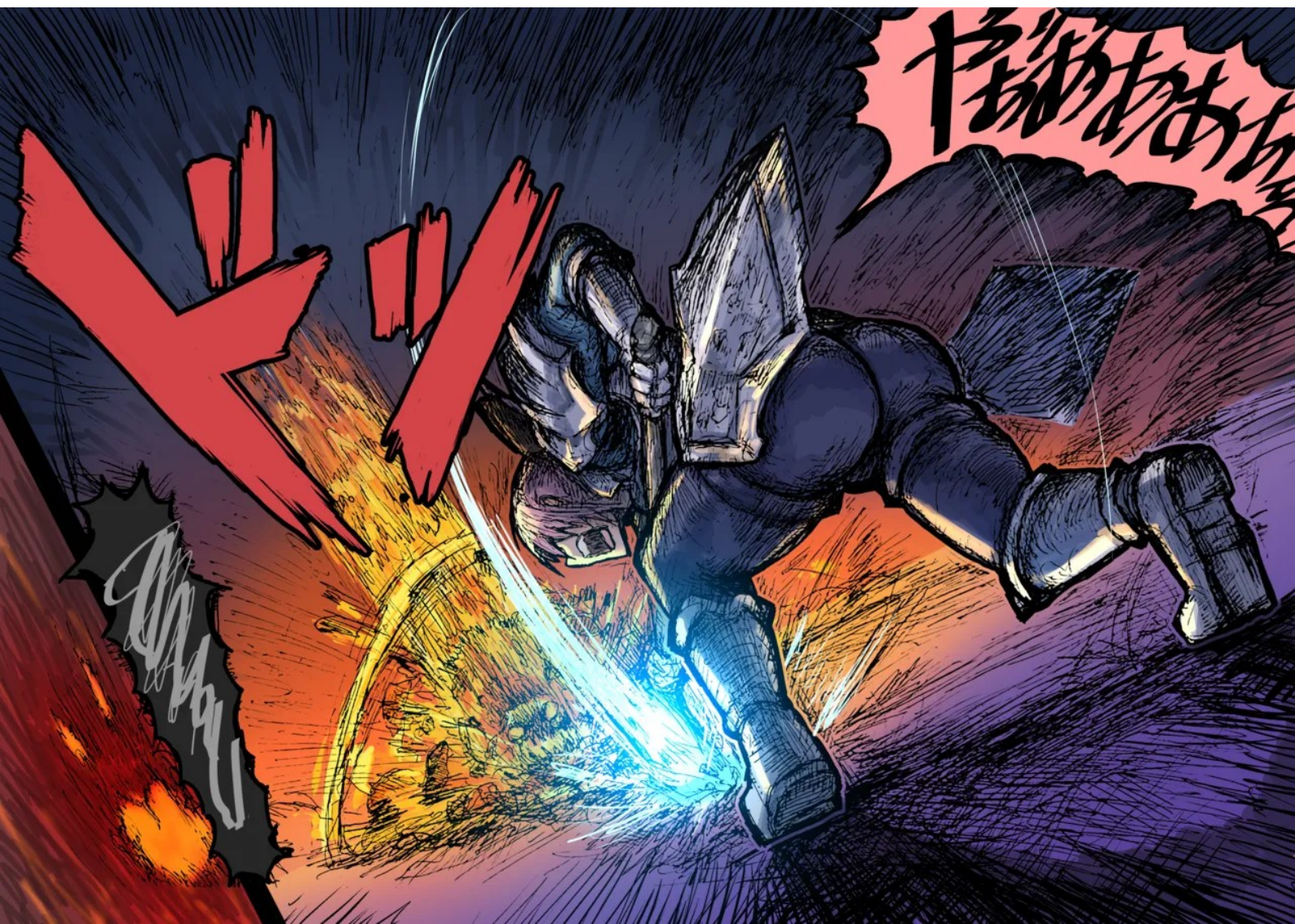
もう大丈夫よ



!?



騎士様...??





しかし



!!? どこ行った!



何?!?

騎士達は  
人々の憧れの存在であった



貴方にも  
星の神々の導きがあらんことを

ヘレナ  
(兵種：重歩兵)



すごい!



フワッ



怪我はない?

騎士様  
ありがとうございます!

うん!



良かったわ

ニギ







時は経ち  
魔界 オークの国



オークは騎士を  
連れ去って行った



彼女達が  
その後どうなったのか  
人々は知る余地はなかった

始めるぞ

結婚式を



身体が明らかに  
変わってしまった。

連れ去られた騎士達は  
無事だった。  
しかし様子がおかしい。



オーク様

私たちの雌穴に

精子を注いで下さい

騎士たちはオークの雌になった。

オークの男根を求める彼女たちの姿はまさに雌豚のようであった。そこには騎士道などありはしなかった。

あそこがうずくつ

はっ

はっ

はやくつ  
せいをいれてくれつ

はっ

離らしくなったな  
立派なポテ腹だ

ああつ  
そ そんなこと  
いわないでえつ♡

はっ





華やかな衣装  
豪勢な食事  
美しい暮らし

今の彼女たちには必要なかった。  
今はただ、遅いオークに  
愛される事だけを求めていた。



乱れ狂う  
アロママが見たいんだ

ああ  
見せてくれ

あなた  
私のイクところ  
よく見てくださいな

彼女たちは人の倫理観を捨て  
オークの文化に染まっていた。  
性行為を娯楽のように行い  
色々な雄達と  
身体を交え合っていた。

乱交は一夜中続けられていた  
辺りには嗚咽のような  
喘ぎ声が鳴り響いていた



快楽に染まるその姿は  
オークの嫁に相応しかった。  
そして、  
儀式も最大の山場を迎えた。



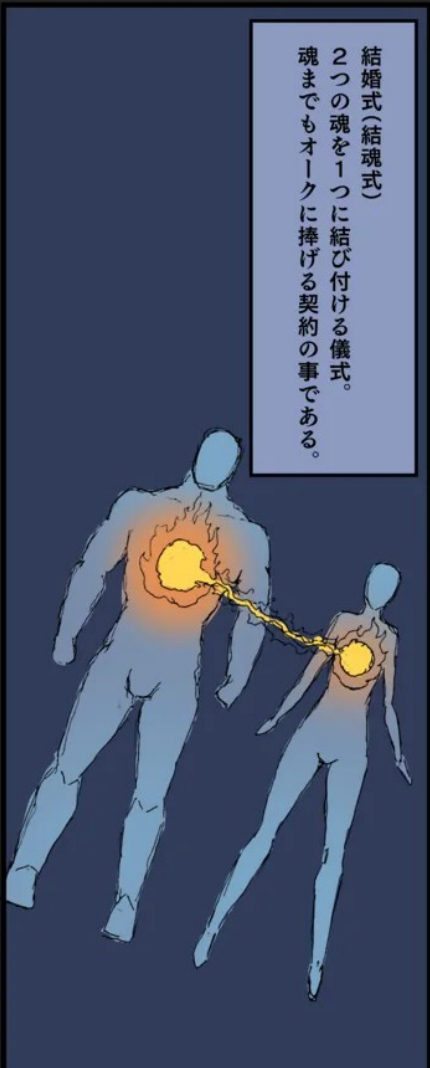
お前たち騎士には  
犠牲になつてもらう

我々には…  
果たせばならぬ夢があるのだ…!!



そして死後も魂は神々のいる天へ迎えられず  
オークと共に魔界を彷徨うことになるであろう。

もし見つければ彼女達は  
【被害者】ではなく【魔族】として  
自分達の居た騎士団の手で処刑される事となる。



結婚式(結魂式)  
2つの魂を1つに結び付ける儀式。  
魂までもオークに捧げる契約の事である。



私  
オリビアは

貴方に魂を捧げると  
誓います

結婚(結魂)して下さい



私は貴方の物

夢を叶えるため  
私の身体を使って下さい



私にも  
その夢を見せて下さい

貴方の傍で



私たちの事を  
気にかけてくれる  
なんて嬉しい



オーク様が教えてくれたんですよ

本当の正義を

2つの魂が結びついたその瞬間。  
オークのこれまでの人生が  
雌へ共有されていった。





【星の神々】から  
世界を守りましょう

オーク様...

彼女は神を裏切り  
オークの仲間となった。



オーク様の記憶が  
私の中を満たしてる...

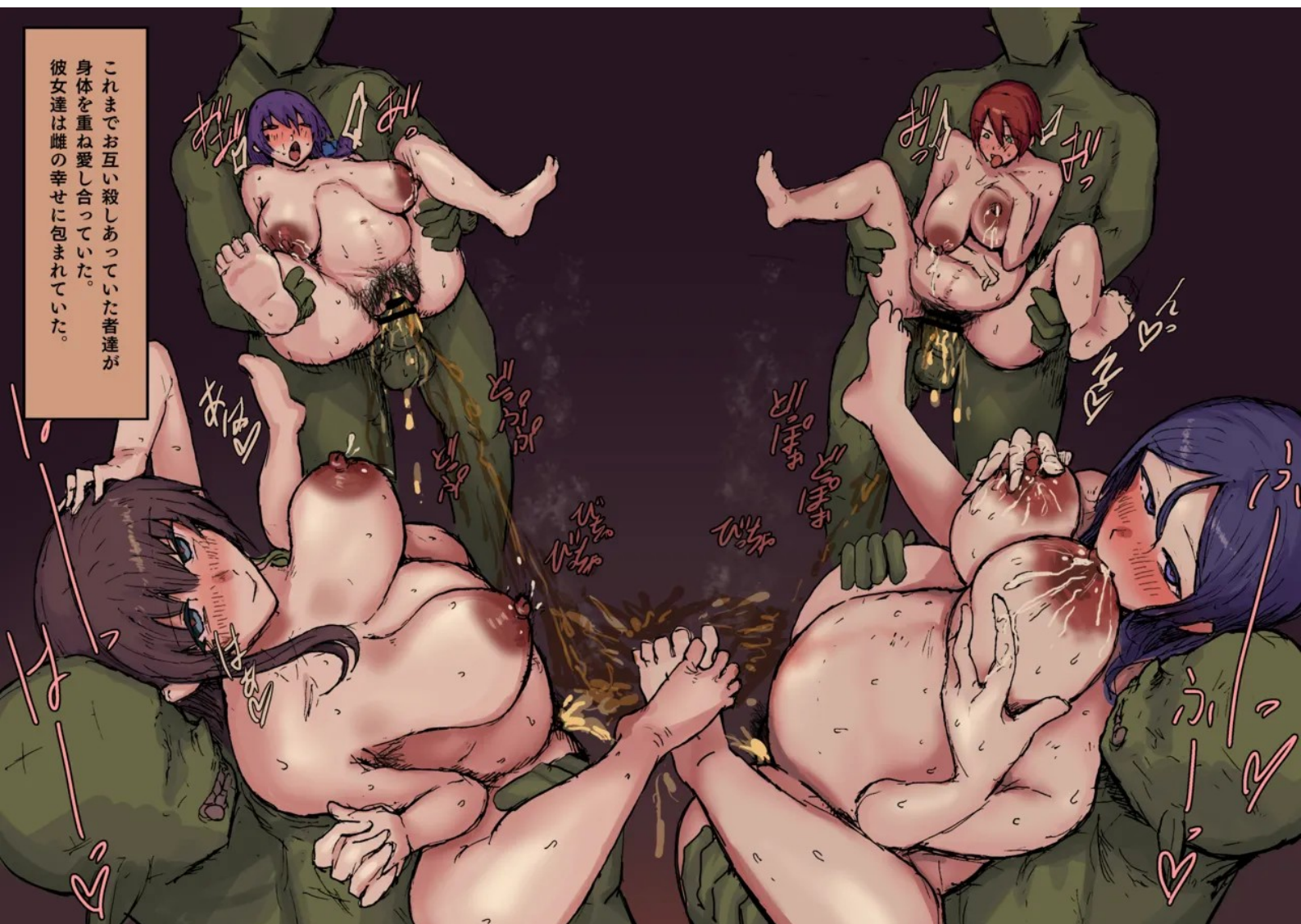




もう彼女達は戦場に出て傷つく必要はない。  
オークの子供を育てる生活を送るのであった。



これまでお互い殺しあっていた者達が  
身体を重ね愛し合っていた。  
彼女達は雌の幸せに包まれていた。





もうお前は  
俺のものだ

もう感しみや  
不安は考えな

お前は幸せだけを  
感じればいい



ずっとそばに  
いてくれる？

ああ



じゃあいいよ  
結婚しよ



もう忘れさせて…

産まれた時から  
貴方の雌だったと思うくらい

思い出さないように  
幸せでいっぱいにして…



騎士の事

家族の事

そして彼の事



後はお前だけだ

どうした？



ここに連れてこられて  
最初は辛い事ばかりだったけど  
今は幸せよ



でも一人になると  
思い出してしまうの







魂の共有をした時  
ご主人であるオークの記憶から  
何を見たのであろうか？

こうして女騎士は  
オークの仲間として認められた



これから彼女たちは  
オークの妻として  
幸せに過ごすのだった。



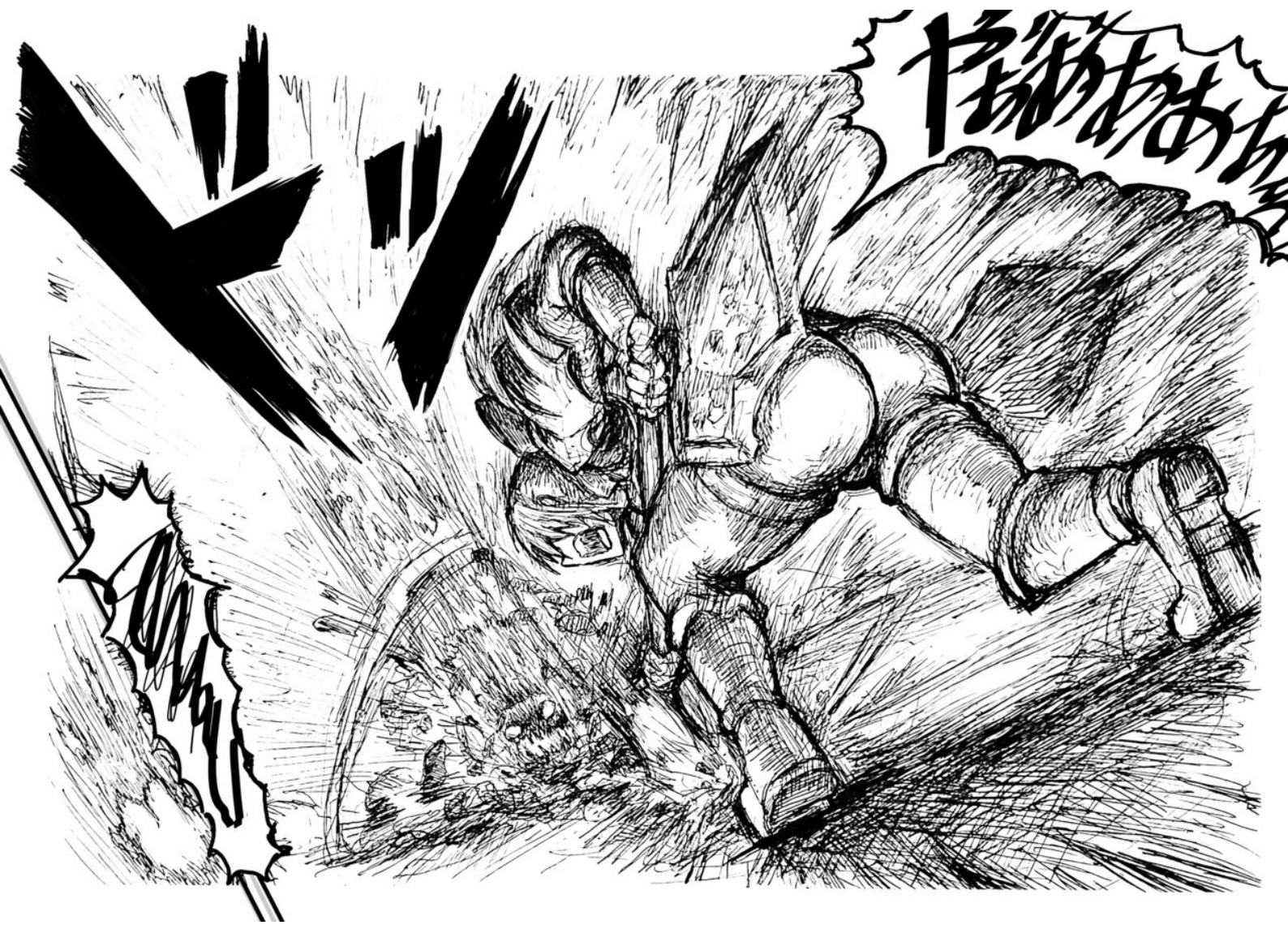
オーク達は着実に戦力を増やしていった。  
彼らの望み  
彼らの正体は  
未だ謎である

オークの結婚式  
おわり

彼女達は星導騎士団  
星の神々に使え  
魔族から人々を守るため  
日夜闘い続けている。









魔族を倒す騎士達は  
人々の憧れの存在であった。



ヘレナ  
(アーマーナイト)

貴方にも  
星の神々の導きがあらんことを





こんな修羅場  
これまで何度も……!

油断した!  
でも 大丈夫

え!?

うそーちよつと!

彼女はオークに敗北した。

なんで!!  
ちよつと待って!

まてー!  
あつー!

ああああああ  
ああああああ  
ああああああ



一瞬の隙が  
彼女の命運を分けた。

うっ!!



犯されていた。

オークに敗北し

!!?

1人また1人と

そして他の騎士達も

魔族も騎士に対抗する力を手にしていた。



時は立ち

魔界 オークの国



以前と明らかに変わってしまった。

結婚式を

では始めるぞ

連れ去られた騎士達は無事だった。  
しかし様子がおかしい。





彼女たちの姿はまさに雌豚のようであった。  
そこには騎士道などありはしない。  
ただひたすらオークの男根を求めていた。



離らしくなったな  
割れてた腹筋が  
今では立派なポテ腹だ  
ああッ  
そ そんなこと  
いわないでえッ♡

はやくッ  
せいしをいれてくれッ

あそこがうずくッ

はぁ

はぁ

はぁ

はやく

はやく

はやく

はやく

はやく

はやく

はやく

はやく

はやく



ああっ  
すこいっはっ  
美味しいわっ  
下の口にも入れて  
下さい♡

華やかな衣装  
豪勢な食事  
美しい暮らし  
今の彼女たちには必要ななかった。  
今はただ、遅いオークに  
愛される事だけを求めている。

彼女たちは人の倫理観を捨て  
オークの文化に染まっていた。  
人にとって神聖な性行為を  
娯楽のように行い  
色々な雄達と  
陰部を交え合っていた。

あなた  
私のイクところ  
よく見てくださいな

ああ  
見せてくれ

乱れ狂う  
アロマが見たいんだ



乱交は一夜中続けられていた  
辺りには嗚咽のような  
喘ぎ声が鳴り響いていた



快楽に染まるその姿は  
これ以上なく  
オークの嫁に相応しかった。  
そして、儀式も最大の山場を迎えた。



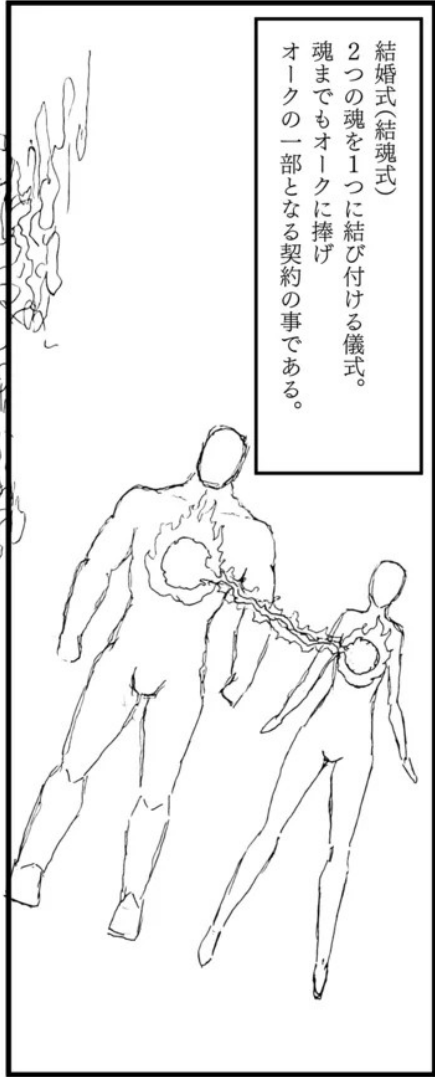
お前たち騎士には  
犠牲になつてもらおう

我々には…  
果たせばならぬ夢があるのだ…!!



死後、その魂は神々のいる天へ迎えられず  
オークと共に魔界を彷徨うことになるであろう。

もし見つかれば彼女達は  
【被害者】ではなく【魔族】として  
自分達の居た騎士団に処刑される事となる。



結婚式(結魂式)  
2つの魂を1つに結び付ける儀式。  
魂までもオークに捧げ  
オークの一部となる契約の事である。



私  
オリビアは

貴方に魂を捧げると  
誓います

結婚(結魂)して下さい

すか  
ほか ほか ほか



私は貴方の物

夢を叶えるため  
私の身体を使って下さい



私たちの事を  
気にかけてくれる  
なんて嬉しい

くっ



私にも  
その夢を見せて下さい

貴方の傍で

くっ  
じり



オーク様が教えてくれたんですよ

本当の正義を



2つの魂が結びついたその瞬間。  
オークのこれまでの人生が  
雌へ共有されていった。



オーク様…

【星の神々】から  
世界を守りましょう

彼女は神を裏切り  
オークの妻となった。



オーク様の記憶が  
私の中を満たしてる…

そして他の騎士たちも  
オークに魂を捧げていった。

あなた  
早く入れて  
私たちも誓いませよ

他のに負けない  
お前の濃い精子で  
孕ませてくれ

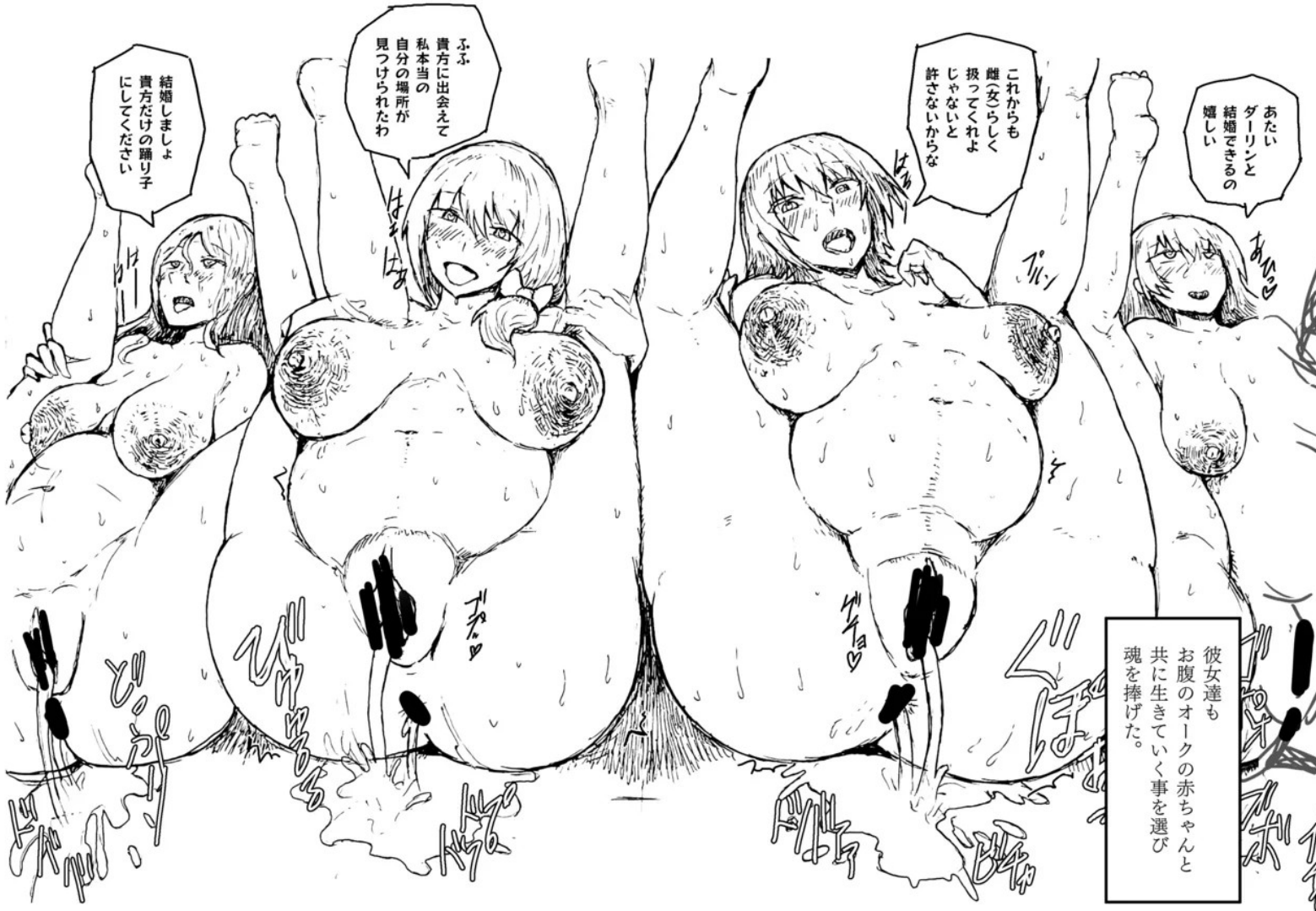
ほら早くしないと  
僕 他のオークの  
赤ちゃん  
産んじゃうよ？

私の全てを貴方にあげるね  
だから赤ちゃん産ませて





もう彼女達は戦場に出て傷つく必要はない。  
オークの子供を産み育てる  
生活を送るのであった。



結婚しましょ  
貴方だけの踊り子  
にしてください

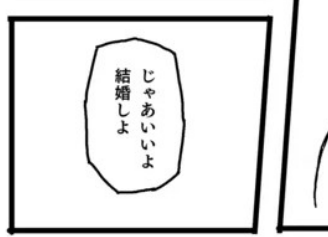
ふふ  
貴方に出会えて  
私本当の  
自分の場所が  
見つけられたわ

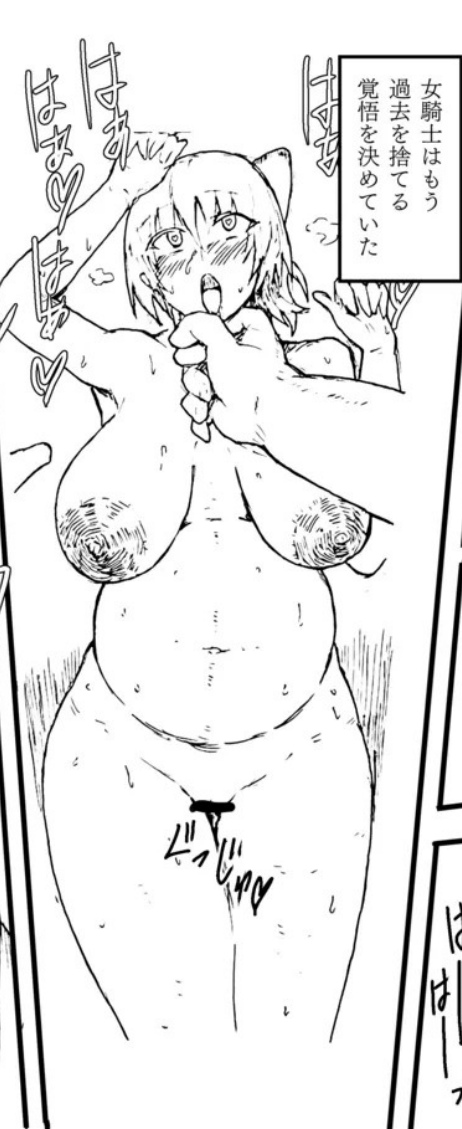
これからも  
雌(交)らしく  
扱ってくれよ  
じゃないと  
許さないからな

あたいたい  
ダーリンと  
結婚できるの  
嬉しい

彼女達も  
お腹のオークの赤ちゃんと  
共に生きていく事を選び  
魂を捧げた。







女騎士はもう  
過去を捨てる  
覚悟を決めていた









これが騎士達の最後であった。  
これからはオークの妻として  
幸せに過ごすのだった。



オーク達は着実に戦力を増やしていった。

彼らの望み

彼らの正体は

未だ謎である

オークの結婚式  
おわり